



瀬戸会館だより  
平成24年6月号  
新居浜市瀬戸会館  
〒792-0821  
新居浜市瀬戸町7-30  
E-mail  
seto@city.niihama.  
.ehime.jp  
TEL 0897  
41-5859  
(FAX 兼用)

一年生を迎える集会



6月の主な行事予定

6月13・27日(水) — 移動図書館(14:00~14:40)

6月11日(金) — 人権のつどい日



今朝は、雷鳴轟く雨の中を登校してきた子どもたち。入学から一カ月がたった5月9日、泉川小学校では『一年生を迎える集会』が開かれた。進行役の児童の合図で、5年生が手作りした鯉のぼり形の兜をかぶった1年生が、6年生に手をひかれて花のトンネルをくぐって入場。互いに向き合う口の字の隊形で位置に着く。つづいて各学年ごとに工夫を凝らした楽しい歓迎の出し物があった。

6年生は「給食の準備が早くできるようなったね」「みんなで仲良く遊んでいるね」と、すでに一年生の成長を認めたコメントを出していたのはさすがであった。つづいて、見守り隊の紹介があり代表の藤田さんから「登下校時にはみんなのそばにいるからいつでも声をかけてください。」と挨拶があった。児童相互に、また、地域の人からの目配り気配りが行き交う心温まる集会であった。

準優勝!



人間尊重を根底に据えた教育実践

出前授業

学校の教育目標を『思いやりの心を持ち、主体的に生きようとする生徒の育成』とし、すべての教育活動を通して人間尊重の精神を育てようとしている新居浜市立中萩中学校。5月2日、本館の香出指導員が中学校におじゃまして、生徒の皆さんに様々な事例を提示しながら、偏見や差別の不合理について考えていただく時間をもった。対象の2年生は、秋の修学旅行で大阪人権博物館を訪れるようだ。それまでの学習で培った人権尊重の意識の高まりを、より確かなものとして、生活の中に生かされるように学習が進められている。今回の出前授業はその一環として位置づけられている。年間を通して行われる学習は、きっと子どもたち一人ひとりを大きく成長させることでしょう。数日たって、実に多くの生徒の感想を届けていただいた。講師の話を自分なりに理解し自らのこととして受け取っている。そのような聴き方ができていることに驚いた。そのすべてを掲載したいところだが、紙面の都合で次の2点の紹介にとどめたい。

感想A

これからも人権や差別について、ずっと勉強し続けなければならないと思った。そして、私は絶対に、一番最低な見て見ぬふりをする第三者のような人間にはなりたくない。これから生活をしていく中で、きっと差別やいじめは目の前で起こると思う。 続き裏面へ



~泉川町民運動会~

空はもやがかかって、南の高い山は見えないくらい。今日、5月20日(日)は泉川小学校で町民運動会。暑くなく、風が緑の小枝をゆらす運動日和。それぞれの自治会のテントが運動場を囲んで、応援の太鼓を打ち鳴らす。瀬戸・寿ブロックはテントも鉢巻も澄んだ空色。

テントの中には、連合自治会長の盛川節子さんをはじめ爺ちゃん婆ちゃんにお孫さんなど三世代の姿もみられ、たくさんの家族でにぎやか。そして、ここから次々と選手は入場門に向かい、競技して、テントに戻ってくる。仲間の選手がテント前を通過するときは、ひととき大きな歓声上がる。

プログラムはどんどん進み、「防災消火リレー」「むかで競争」で瀬戸・寿は第一位。圧巻だったのは綱引き。予選で西喜光地と、決戦で岸の上と対戦したが、司会進行役の男性が思わずマイクで「瀬戸・寿、圧勝です!」と叫ぶほど。最後尾で綱を握っていた女性が尻モチをつくおまけまで。本当に、お疲れさんでした。準優勝の賞状やトロフィーは瀬戸会館の廊下に飾っています。また、皆さんご活躍の写真は8月の当館『であい展』に展示する予定です。

# 人権あらかると

「第34回部落解放文学賞」詩部門入選作品

にし みつ まつ  
西 三 松

永井 孝史

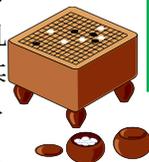
集落は浜に沿って長く延びていた  
 小さな川が二つに浜辺を分けて湾に流れ込む  
 それを境にして  
 岬側の家並みを西三松と呼んだ  
 浜辺で内海でおまけに遠浅だから  
 夏ともなると海水浴客で賑わった  
 だから海辺には民宿が建ち並ぶ  
 新しい家の背後に寺や隣保館があり山も迫る  
 岬の近くで稼動する原子力発電所は  
 修理と点検がしょっちゅうで人が雇われる  
 放射能や不具合と付き合う下請けの労働者が  
 季節を問わず  
 何日も民宿に泊まり込む  
 夕暮れどきに寺の石段から見下ろすと  
 えびす浜海水浴場の看板を洗うほどの大潮で  
 波打ち際には  
 沖へ目を凝らしたまま座りつづける男がいる

『部落解放』（2008年、増刊号）より

## サークル訪問 ～ 囲碁教室 ～

毎週木曜日の午後囲碁を愛する面々が集うE室は、当館一階の奥にある。四畳半の広さはあるのだがロッカーが陣取っているためか、三畳ほどに感じる。そこに会議用の細長い机が一つ置かれ、碁盤が二つ並ぶ。ひとつはそれなりの盤で碁石を打てばビーンと低く静かに響くが、もうひとつはペチャンコの板で軽く乾いた音がする。「どうしようか〜」「こういったら、こうくるか・・・」と思わずつぶやくタイプと、盤をじっとにらんで沈黙考型とが対座するなど二組四人が対戦中。最初に黒の碁石を五つ置いてからスタートした二人は、次々とテンポよく石が置かれ、勝負は早い。そして盤上を眺めながら、あれこれ二人で勝負の経過をふり返る。もう一組は手に持ったままの石が盤上で宙に留まり、しばし状況を確認している模様。そこにメンバーが一人加わり、場の雰囲気が変わる。碁石入れのふたには、相手の陣から取った石がひとつふえ、またふたつとふえていく。

今日もおだやかな時間が流れていた。



**前ページより** しかし、そこで「やめよう」というのと、無言でいるのでは大きく違ってくると思うので、私は「やめよう」という大切さを生活の中で生かしていきたい。

### 感想B

自分の知らないところで、自分も差別しているんじゃないかなと思う。これから、もっともっと人権のことを学習して、自分から差別をしない人間、差別をなくす人間になって、先ず自分を見直してから周囲の人からも差別がなくなるように努力していきたい。一人ひとりが意識をもって、差別をなくしていきたいと思う。今日のことは家族にも話して、家族みんなでもう一度自分を見直していきたい。

### 「人権のつどい日」にひろう



ご近所に咲くぼたん

5月11日（金）は「NPO法人新居浜ほっとねっと」の相談員村上美代子さんの『人と人のよりよい関係について』と題する講演を聴いた。主なテーマはDV（ドメスティック・バイオレンス＝家庭内暴力）で、配偶者や恋人など身近な人からふるわれる暴力についていろいろと考えさせられた。

『暴力』にも殴る、蹴るという「身体的」暴力のほか、どなる、無視する「精神的」暴力、ポルノ画像を無理やり見せたり性行為を強要する「性的」暴力、生活費を入れなかったり借金を繰り返す「経済的」暴力などがあり、被害者は苦しい立場にあるという。困った時は、先ず 080-1996-3609 に電話してほしいと村上さんは強く訴える。そして「私たちが相談を受ける立場になったとき、『何かあなたの、何が原因だったの?』とか『子供のために多少はがまんしないと』などの言葉は、相談者を傷つけるだけで解決にはならない。暴力はする側に問題があるのだから。」と話されたことが印象に残る。

また、資料に出てくる研修者の『人を好きになる』ということは『互いに尊重し合うこと』だ、ということがわかった。」という感想は、あらためて噛みしめたい言葉だ。

## 6月公演 回転木馬おはなし会

6月6日予定 10:40~11:00 瀬戸児童館



## 「いっこ!」の命 ～ 交通安全教室 ～

早朝から雷が鳴り響いて雨が心配でしたが、5月9日（水）東田保育園では交通安全のおべんきょうが出来ました。新居浜市の防災安全課から指導に来ていただき、元気に「おはようございます。おねがいします。」と先ずごあいさつ。指導員の杉本おねえさんから「みなさん、命はいくつあるか知っていますか?」と尋ねられると、園児は一斉に「いっこ!」と答える。続いて「今日はその命の守り方を勉強します。」と話す。次々と大きな説明カードを見せながら、具体的に、ゆっくりと、やさしく説明があり、園児はその一つひとつに反応を示す。

お話しのと園の近くの道で交通安全の訓練を実施。二人ずつ手をつないで、指導員さんや先生方の見守るなか安全歩行ができました。「いっこの命」が何の事故もなく大きく育ちますように。